

瑞穂区近代の歴史散歩

一身近な「地域遺産」発見・発掘一



石川土地区画整理組合事務所（昭和4年の村上町付近）

瑞穂区のまち並みは、明治～昭和前期の耕地整理・区画整理事業などによってつくられました。

規則正しく区切られた道や曲がりくねった道など今の「つくられた」まち並みには、現在と過去をつなぐ痕跡、まちをつくった古人が瑞穂区の未来に託した名残が、各所にあります。

足の向くま、気の向くま、時に歩いた跡をふりかえりながら、散歩をしてみましょう。

Aゾーン [平野]

瑞穂区の母なる運河 “新堀川”

瑞穂区域は、明治に入ても田んぼや畑などが広がる、農業地域でしたが、運河が整備されると、周辺に水運を利用した大工場が立ち並び、西から東へと工業・商業の町へと変貌を遂げていきました。

“瑞穂”的由来?! “明治天皇監視之所”

明治元年（1868）明治天皇が還都のため、京都から東京へ向かう途中、東海道の八丁堀（現神郷町付近）にて、筆を止めて、初めて稻の収穫をご覧になられた場所です。

豈草原千五百秋之躍龍之圖 ～日本書紀～

意味：豈に草が生え茂る原、限りなく長い年月、端々に種類が異なる瑞穂区の“瑞穂”的名は、この事柄が広く知られたため、明治7年（1874）の村の合併協議の際に「瑞穂村」と命名され、明治9年（1876）に瑞穂村が成立したのに始まると考えられます。



「明治天皇収穫御覧」森村宣輪筆 热田神宮所蔵

Bゾーン [台地]

坂の上の “瑞穂台地”

瑞穂台地は古墳などの遺跡や神社が多くあるように、古くから人の営みや文化の歴史が続いている所です。高田街頭や平針街道をはじめとする道路や、市電などの交通機関の整備（区内では大正12年（1923）、小針（鶴舞商店館付近）～牛巻）が進み、人々が頻繁に行き来する道路沿いには、商店街が形成され、從来からの集落を繋いでいきました。台地の上は、湿地、沼地の類がなく、ほとんど高低がない畠地で環境もよく、用地買取も容易にできましたため、明治後期から、学校が続々と開校しました。熱田駅から学校へと続く坂を上り登校し、勉強に励んだ学生が、近代の日本を担っていました。

台地へ… “東西に伸びた商店街”

西から瑞穂台地へ上っていくように、工場労働者などの住宅が建てられ、通勤経路には、商店街が形成されました。順番商店街には、大正15年（1926）に、栄市場が設けられ、また、最盛期の順番商店街は、西区の円頓寺商店街と並ぶ順番を見せていました。現在は、市電の廃止や交通事情の変化などにより、かつての活気は薄れましたが、今でも下町情緒が心地よいまち並みが残っています。



八高は、現在、名古屋市立大学前キャンパスとなっていますが、以前は塀に、剥がれ落ちたモルタルの裏に隠れていました。当時の八高的煉瓦の跡を見ることが出来ます。

Cゾーン [谷間]

江戸時代からの構想！ 東の堀川 “新堀川”

前面は精進川という大雨のたび氾濫するような、低湿地を流れる曲がりくねった川でした。明治37年（1904）日露戦争が始まり、周辺の湿地帯に兵器工場を建設することになりました。それに伴い、精進川改修工事を行い、掘削で出た土は、用地の埋め立てに使いました。工事は明治43年（1910）に完成し、工場と港を結ぶ運河となりました。

新堀川と名前をえた川の沿岸には、砲兵工廠、日本車両、服部紡績、日本碍子などの大工場が立ち並び、工場で働く労働者が集まり、まちを活気づかせ、商売を呼び、人が多く住む住宅を形成していました。



大名古屋市街地図（大正13年）



① 明治天皇監視之所
② 新堀川の碑
③ 東ノ音神社にある3つの石碑
a.明治天皇賜記念碑
b.熱田神宮御供木田奉獻記念碑
c.明治天皇八丁堀御立所
④ 改修工事の経緯や掘った土が工場用地や瑞穂公園の埋立てに使われたことなどが記されています。

Dゾーン [丘陵]

瑞穂の文教地域の始まり “五中”

明治時代は、学校はナンバーリストリートとしており、愛知県のナンバー中学校は、一中（旭丘高）、二中（岡崎高）、三中（津島高）、四中（時習館高）と続き、明治40年（1907）県立第五中（県立瑞穂高校の前身）が設立されました。

名古屋高等教育の源流 “八高”

最高学府の大学につながるナンバースクールは、一高（東大）、二高（東北大）、三高（京大）、四高（金沢大）…と続き、明治41年（1908）第八高等学校（名古屋大学旧教育部前身）が設立されました。戦後、名古屋大学の東山キャンパス統合後、名古屋市立大学の文科系学部の用地になりました。

正門は、明治村の正門として移転保存されています。

正門は、元の赤煉瓦のものにモルタル吹き付けをして利用されていました。



⑤ さくら名所 100選の碑
萩山橋の東側に「さくら名所100選の碑」が設置されています。橋の手すりには、右のよなな桜の飾りや崩れがあしらわれています。
⑥ 正及神社
徳川家康を祀る東照宮。1716年、第6代藩主徳川家宣の命で創建。櫛高も高く、名古屋城下を望む、風光明媚な社として評価されています。
⑦ 東郊耕地整理組合の碑
菅原辰氏が率いた東郊耕地整理組合は、南に牛巻通りから、北に鶴舞付近までの耕地面積を行いました。記念の碑は高田小学校の北に位置する歴史会社に設置されています。

Eゾーン [谷間]

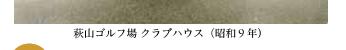
誘致された運動公園 “瑞穂公園”

瑞穂耕地整理組合は、第一次世界大戦後、国民の体力向上や、昭和15年（1940）の東京オリンピック開催が決定されるなどの動きのなかで、土地の付加価値を上げるため「運動公園」を誘致しました。しかし、1組合では面積が不足したため、隣接組合（弥富、弥富南部）と協力して約12ヘクタールの土地を捻出し市に寄付しました。昭和25年（1945）天皇・皇后両陛下がはじめてご臨席されることになった第5回国民体育大会が開催され、戦後の名古屋を活性づけるとともに道路や交通機関のインフラが整備され、戦後の発展に大きく貢献しました。

つくられた名所 “山崎川の桜”

山崎川は、名古屋東部丘陵地にある猫ヶ洞池を主な水源とし、瑞穂台地と八事川・山崎川の谷を流れている川です。大雨で氾濫を繰り返す川であったため、昭和の始め、区画整理事業で蛇行箇所を修正しました。現在でも旧流の痕跡が、流域周辺の段差や道筋に表れています。

石川土地区画整理組合は、住宅地としての価値を高めるため、組合協賛会を組織して、乗合自動車を營業し、交通の便を図り、山崎川を整備し、竹林をすべて伐採し、石川橋～鶴舞に桜の木を植え、地区の美化を図りました。植樹された昭和3年（1928）は、同種の並木でも最古クラスです。その後下流にも桜が植えられ、上流と下流で桜の木の寿命が来る時期がずれ、常に桜並木を楽しめるようになりました。



萩山ゴルフ場 クラブハウス（昭和9年）



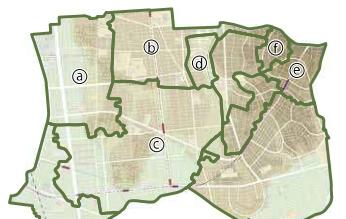
徳川家康を祀る東照宮。1716年、第6代藩主徳川家宣の命で創建。櫛高も高く、名古屋城下を望む、風光明媚な社として評価されています。
正及神社

Fゾーン [丘陵]

意図的に残した、緑と美しい起伏の地形

「山林都市」の思想の精神をすべて体现したものではありませんでしたが、次のとおり、地区の開発の特徴が挙げられます。

- ① 山は切り崩さず、坂道はならさない。
- ② 道路は、尾根筋・谷沿いなどを活かし、葉脈状、曲線に引いた。
- ③ 良質な木材は、伐採せず、風致木として残した。
- ④ 敷地内に緑を残すために、一筆の土地の面積を大きくとした。
- ⑤ 土地の高低を考慮して、台地には「岡」、凹地には「谷」とし、地名で四季を風趣豊かに演出した。紅葉園、松風園、梅園、桜ヶ岡、緑ヶ岡、月見ヶ岡、雲雀ヶ岡



⑥ 東郊耕地整理組合
⑦ 石川土地区画整理組合
⑧ 阿久知耕地整理組合
⑨ 八事耕地整理組合
⑩ 瑞穂耕地整理組合
⑪ 南山耕地整理組合
⑫ 第五中学校卒業 杉原千畝「人道の道」



瑞穂区内の主な樹地・地区画整理組合 地図

Gゾーン [谷間]

区画整理の祖 “東郊耕地整理組合”

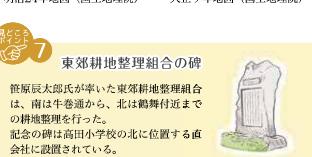
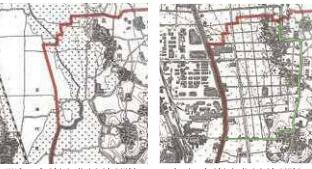
大工場、商業地域、官立諸学校を周辺に擁す瑞穂区城北西の地域で大正元年（1912）に設立されました。瑞穂区内で最初の整理事業でした。

当時画期的だった点

- ① 事業法は、農地の利便性を向上させる「耕地整理」でしたが、実際は広い道路をつくるなど「宅地」の整理を行ったこと
- ② 事業費の一部を整理後の土地の値上がりを見越し地権者が少しずつ土地を提供して販売し、捻出する「減歩」で賄ったこと

これらは後にできた「土地区画整理法」に活かされました。

以降、耕地・土地区画整理事業により、宅地用に田畠を碁盤に区切り、丘を削り、土を運び、農業用のため池を埋め立て、時には塚や古墳をならし、道を開き…現在の瑞穂区の原形がつくられたのです。



菅原辰氏が率いた東郊耕地整理組合は、南に牛巻通りから、北に鶴舞付近までの耕地面積を行いました。記念の碑は高田小学校の北に位置する歴史会社に設置されています。

Hゾーン [谷間]

明治の幹線道路 “郡道”

郡道という道路は、地方公共団体としての「郡」があった頃につくられた道路です。

国道一県道一郡道一町村道と階層化

区内の主な郡道には、次の3本があります。

- 千種街道 呼続町千窓～千種町（吉井の坂）
- 平針街道 热田停車場～平針
- 高田街道 热田兵器廠～五中

「郡」という行政体は、三つの段階があり、郡道は①の段階でできました。

- ① 地方公共団体：郡議会、郡参事會、予算執行権 明治23～大正12（郡制）

② 出先機関：郡長、郡役所 明治11～大正15（郡区町村編成法）

- ③ 地域名称：行政区域の名前 明治11～現在（郡区町村編成法）

※古代から「郡」はあったが、地理的区分として使用される例が多くありました。



第五中学卒業 杉原千畝「人道の道」



第五中学卒業 杉原千畝「人道の道」